

予算決算委員会会議録

1. 開催年月日

平成31年 3月14日 開会 9時58分 閉会 11時03分

2. 開催場所

全員協議会室

3. 出席委員名

宮地俊則	三輪順治	妹尾文彦	多賀信祥
柳原英子	山下憲雄	細羽敏彦	西村慎次郎
荒木謙二	柳井一徳	惣台己吉	三宅文雄
坊野公治	藤原浩司	上野安是	簀戸利昭
大滝文則	佐藤豊	森本典夫	

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議長 西田久志

(2) 説明員

副市長	猪原慎太郎	総務部長	渡邊聡司
市民生活部長	北村宗則	健康福祉部長	山田正人
建設部長	橋本良啓	水道部長	妹尾福登
病院事務部長	野崎正広	総務部次長	佐藤和也
市民生活部次長	井口勝志	健康福祉部次長	唐木英規
建設部次長	谷本悦久	水道部次長	田中伸廣
芳井支所長	岡田光雄	美星支所長	川上邦和
健康福祉部参与	宮良人	病院事務部次長	田平雅裕
税務課長	竹井博範	協働推進課長	沖津幸弘
企業立地課長	田中大三	下水道課長	飛田圭三
総務課長補佐	片井啓介	福祉課長補佐	片山恭一
魅力発信課長補佐	金政吉伸	上水道課長補佐	熊原康治
市民課戸籍住民係長	岩本陽子	都市建設課都市管理係長	武智義仁

(3) 事務局職員

事務局長	川田純士	事務局次長	藤原靖和
------	------	-------	------

6. 傍聴者

(1) 一般 0名

(2) 報道 0名

7. 発言の概要

委員長（宮地俊則君） 皆さんおはようございます。

ただいまより予算決算委員会を開会いたします。

本日は、特別会計、企業会計、財産区会計の予算を審査いたします。

審査の順序は、昨年と同様に総務文教委員会、市民福祉委員会、建設水道委員会関係の順で行いますので、よろしく願いいたします。

これより議事に入ります。

〈議案第19号 平成31年度井原市大倉財産区会計予算〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第20号 平成31年度井原市東水砂財産区会計予算〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第21号 平成31年度井原市宇戸財産区会計予算〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第 8 号 平成 3 1 年度井原市国民健康保険事業特別会計予算〉

委員（森本典夫君） この資格証明書を発行している人が何人かおられると思いますが、そういう方に対して、そういう方の家族とかが病院に通ったりという場合は、まず 10 割負担ということになるわけでありますが、どうしても医療費が払いきくと、払えないという方に対しては、自治体へ申し出れば短期保険証交付というようなケースもありますが、この予算の中でそういう短期保険証を特別に、言ってみれば例外的に発行する予算というのはどこに入っておりますか。

市民生活部次長（井口勝志君） 資格証明書を発行するに当たっての予算はどこにあるかということですが、特別に予算としては計上しておるものではございません。

委員（森本典夫君） ということになれば、そういうケースがあった場合は、予算がないのに発行ということにならないと思いますが、そのあたりどうなりますか。

市民生活部次長（井口勝志君） 特別な予算は設けてはございませんが、資格証明書等の発行につきましては、内部での検討会議を持っております。そこで状況を確認した上で、通常の事務の中で書類を作成をして、交付をさせていただいているわけでございます。特に対象の方からご相談を受けましたときには、窓口でご事情等をお聞きしまして、適宜判断をさせていただいております。

委員（森本典夫君） ということになれば、どうにか短期保険証は発行してもらえということになるというような判断をしてよろしいでしょうか。

市民生活部次長（井口勝志君） こちらにつきましては内部で委員会を設けておまして、そちらのほうで要綱等にのっとり適宜判断をいたしておるところでございます。

委員（森本典夫君） この新年度の予算の中ではこれからですからわかりませんが、本年度、現在の予算の中で資格証明書を発行しておられた方がどうしても急病人が出て医療費が

払えないという場合は、短期保険証を交付してほしいというようなことで要望があったことが本年度でありますでしょうか。

市民生活部次長（井口勝志君） 本年度においてはございません。

委員（森本典夫君） さかのぼって、そういうのを出した記録がありますか。

市民生活部次長（井口勝志君） 濟いません。本年度はないんですけれども、過去につきましては、現在資料を持ち合わせておりません。

委員（森本典夫君） 担当課として、先ほど話がありましたように、いろいろ検討を加えて必要があればという話であります。基本的な考え方として資格証明書を発行している世帯が、先ほども言いましたように急病人が出て、収入も少ないし、治療費がなかなか払えないというような申し入れがあった場合は、それに対して正面から受けとめて、発行できるかできないか検討をするということで、窓口でそれはいけませんよというような対応をしてないのだろうと思いますが、その点で基本的な、こういう方に対する対応の考え方をお聞かせいただきたいと思います。

市民生活部次長（井口勝志君） 資格証明書、それから短期証、それぞれ市としましても被保険者の方の状況等を、それから納付の状況等を判断した上で要綱にのっとって協議の結果、決定をさせていただいているところでございます。委員さん申されております特別急入院をされるというようなケースも出てこようと思います。そういったケースがございましたら窓口のほうへご相談をいただきまして、そのご事情を確認させていただいた上で適切な判断をしていきたいというふうに考えております。

委員（森本典夫君） 基本的にはそういう形で対応していただくというのはいいと思いますが、こういうことを資格証明書を発行している世帯の方で、ほとんどの方が急病で病院へかからなければならないが、医療費がなかなか払えないんだと、滞納もあるわけだしということでなかなか、そういう制度そのものを知ってもらえない方がほとんどのようです、新聞報道によりますと。そういう意味では、自治体としてそのことについてそれぞれの市民の命を守る大切な措置でありますので、その点、例えば資格証明書を発行するときに、そういうどうしてもどがあもならんときには相談に来なさいよとかということも含めて、一般的にもそういうPRをして、いざというときに命を守る手だてとして、こういうことがやられてますよというふうなことを周知徹底する必要があると思いますが、その点、今までそういうやり方で何かやった例がありますか。あるいは、今後そういうことに対して周知徹底をしていきたいというような気はありますか。

市民生活部次長（井口勝志君） どのように周知をしているかということでございますが、こちらにつきましては、それぞれ被保険者の方、納期までに納められないような場合に

はそれぞれ担当の係なり、それから年に2回は庁内全体的に特別徴収とかもつくりまして、納付をお願いをしてきております。それから、滞ってきたときには担当のほうからも接触をするようにしまして、ご相談を聞いたりというようなことで、できるだけ納付をしていただけるようにお話をしてくれているところでございます。

委員（森本典夫君）　そこまでは今まで何回も聞いたことでありますし、確認もしたことであります。先ほどの質問は、そのときととか、それ以外のときにどうしても10割負担するのがなかなか大変だというような状況が起きたときには、どういうふうな対応をすべきだというふうなことを、関係者にどういう形でやっておられるのか。そして、やっておられなければ、今後そういうことをやるべきではないかというふうに思うんですが、そのあたりをお尋ねしておりますので。今までの短期保険証それから資格証明書を発行するときの条件については理解しておりますので、それ以後のそういう状況に陥ってしまった世帯に対する周知、短期保険証、資格証明書を交付しておられる世帯に対して短期保険証を発行できる条件が整えば、短期保険証が発行できますよという話をどういうふうな形でやってきたのか。全くやられてないんでしたら今後やるべきだと思いますが、その点をお尋ねしておりますので、その点について明確な答弁をしてください。

市民生活部次長（井口勝志君）　これまでも個別に対応をしまいでございます。今後につきましても同様に対応させていただきたいというふうに考えております。

委員（森本典夫君）　個別にどう対応されているんですか。

市民生活部次長（井口勝志君）　個別にご事情をお伺いしまして、それによりまして協議をしてケース・バイ・ケースで対応をさせていただいているところでございます。

委員（森本典夫君）　それはよくわかるんです。なかなか被保険者で資格証明書を発行されている方が急病等、家族とか主人とかが急病で治療費がなかなか払えないというときに、どういう対応したらいいかというのがわからない人が被保険者の多くの方々のようにあります。そういう意味では、そのあたりができますよということを、協議の結果可否はあると思いますが、そこらあたりを市民の命を守る方法としてかっちりと、言ってみれば漏れなく周知徹底するということが大変大事だろうと思いますが。そのときそのときで対応しているということではありますが、具体的にどういうふうにしていくかという方法を考えるべきではないかと思いますが、どうでしょうか。

市民生活部次長（井口勝志君）　今ご提案いただきましたことなんですけれども、これまでも個別に対応はしてまいっておりますけれども、今後につきましてどういった方向性で考えるべきかというようなことも年に数回、資格証等の発行に際しての検討会を設けておりますので、その中でも検討してまいりたいと考えております。

委員（森本典夫君） ぜひ、今度検討していただいて、具体的にこういう手だてを講じることにしましたというのを決めていただきたい。このことをお願いをいたしまして、この質問は終わります。

委員（佐藤 豊君） 333ページの人間ドックの委託料なんですが、昨年人間ドック委託料が2,911万円に対して本年度が2,560万7,000円で、約340万円ほど削減されているわけなんですけど、その背景、理由というのはどういったことがあるわけでしょうか。

市民生活部次長（井口勝志君） こちらにつきましては、受診者の減によるものでございます。主なものとしては、受診者の減でございます。

委員（佐藤 豊君） 人間ドックというのは早目にいろんな自分自身の病気等々見つけて、早期治療に対応するということが基本ベースにあると思うんですが、受診者が減るということは重篤になって診療を受けるというような可能性が広がるということになると思うんです。そういった意味で受診者を減さないように、極力人間ドックを受けてもらうといった方向性が本来あるべき姿というふうに思うんですが。減ったから予算減しましたというよりか、それに対する対応、少しでも多くの方に人間ドックを受診していただきたいというような対応というのは、現状ではどのように取り組みをさせておられますでしょうか。

市民生活部次長（井口勝志君） 委員さんおっしゃられるように、健診につきましても、それから人間ドックにつきましても毎年該当者の方に周知をさせていただきまして、できるだけ早い機会に健診なり人間ドックを受けていただくようにご案内をさせていただいたり、広報でありますとか、井原放送等を通じましても周知に努めているところでございます。

ただ、国保につきましても被保険者数が減少しておりますこともありまして、受診者数もそれに応じてというんではないんですけれども、少しずつ減ってはくるというようなことで、こういった予算計上をさせていただいているところでございますが、国保といたしましても、保険者としてもできるだけ多くの方に受診をいただきたいというふうに考えております。

ちなみに申し上げますと、県内で特定健診それから特定保健指導の実施率なんですけれども、平成29年度の確定値が出ておりまして、特定健診につきましては42%、それから特定保健指導につきましては27.5%です。特定健診は県内15市の中では2番目、それから保健指導については1番目にいつもいいということでもありますので、こういった取り組みについては今後も積極的に取り組んで、7総でも目指しております受診率向上に向けて、今後も引き続き取り組んでいきたいというふうに考えております。

委員（佐藤 豊君） 説明はよくわかりました。重篤な症状になってからお医者にかかる

と、その分だけ医療費が重なって、その分が保険のほうに反映されるという形になるわけで、早期発見、早期治療ということが一番ベターな取り組みになりますので、いま一層の啓発に取り組んでいただくことをお願いして、終わります。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第10号 平成31年度井原市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第11号 平成31年度井原市後期高齢者医療事業特別会計予算〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第 13 号 平成 31 年度井原市介護保険事業特別会計予算〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第 17 号 平成 31 年度井原市病院事業会計予算〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第 9 号 平成 31 年度井原市簡易水道事業特別会計予算〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第 12 号 平成 31 年度井原市公共下水道事業特別会計予算〉

委員（佐藤 豊君） 公共下水道につなげる、本線から各自宅につなげる割合というのはふえているのでしょうか。

下水道課長（飛田圭三君） 下水道の整備に伴いまして年々供用開始面積はふえておるわけなんですけれども、先ほどお尋ねのありました下水道への接続件数、これは毎年平均的にですが、井原市の公共下水道区域、こちらにつきましては年間平均で約200戸、また芳井処理区につきましては年間約30戸が接続をされているという状況でございます。

委員（佐藤 豊君） それは、当初想定された接続に対しては順調な数字というふうに捉えてよろしいのでしょうか。

下水道課長（飛田圭三君） 順調な伸びかどうかというのは、皆さんがすぐ接続していただくのが一番いいわけではございますが、それぞれおうちのご事情もございまして、工事を行うときから下水道への接続につきましては各おうちの方には説明はしてきておりますので、できるところはしておるといところで、これは決して低い接続件数ではないと考えております。

委員（佐藤 豊君） ますます高齢化で後を継ぐ方がその家におられないといった場合に、つなげるということにもかなりの費用がかかるということで、せっかく玄関の道まで来てるんだけど、なかなかそこから我が家につなげるというところまでいかないという本音を多く聞くんです。そういったことで、そういう実情があるのに、かなりの投資額になるわけなんですけれども、つなげていただいて下水道収入が入らないと採算ベースに全く合わないというような状況が生まれてくるんじゃないかと、そういった危惧をするわけなんで、さらなる接続という形に向けての取り組みという形は、現状その家の方にもう最初に説明して、そこから先はもう接続するまでこちら側は待っているという状況で済ませるのか。もう少しちょっと、接続していただいけませんでしょうかといった積極的な対応を取り組むという考えをお持ちなんではないでしょうか。その辺教えていただければと思うんですが。

下水道課長（飛田圭三君） 下水道への接続につきましては、当然各戸で費用負担が発生いたします。ということで、市のほうでも下水道の補助制度ではございませんが、リフォーム補助金でありますとか、それから排水設備への接続について融資の制度もございまして。こういった制度につきましては、供用開始の説明会のときに地元の方々にも説明をしているところではございますが、今後その説明会以降も、まだやはり整備後までき取りトイレであるとか、単独浄化槽のおうちもありますので、そういったおうちにつきましては早期の接続をお願いするような取り組みも考えていきたいと思っております。

委員（佐藤 豊君） しっかり取り組んでいただきたいということをお願いして、終わります。

委員（三宅文雄君） 本会議でも部長から説明をいただいたんですが、7号豪雨の影響で今後の計画はおくれるという説明をいただきましたが、もう一回どういった影響が出て、今後下水道事業がどういうふうに進んでいくのかということ、ちょっともう一回ご説明いただけますか。

下水道課長（飛田圭三君） 7月豪雨の公共下水道事業への影響でございます。

さきの本会議で30年度の補正予算についての説明のときに繰り越しの説明をしておると思います。30年度の下水道事業につきましては、ご承知のとおり7月豪雨の影響がありまして、31年度へ繰り越しをしております。こちらのほうの事業費が30年度予算で工事請負費が約11億円ございましたが、そのうちの約3億円程度を繰り越しております。31年度に約3億円を繰り越しておりますけれども、31年度ではそのちょうど3億円程度を30年度に比べて要望額を落としておるということで、結果的には30年度の予算と31年度の事業費については、ちょうどとんとんに納まる程度で事業のほうを進めてまいりたいと考えております。

委員（佐藤 豊君） ということは31年度の予算を組んどって、その補正で31年度に回した分が、結局事業全体がおくれるという解釈でよろしいか。

水道部長（妹尾福登君） 本会議で補正のほうで説明させていただいたんですけど、30年度の事業につきまして災害の影響で、先ほども7月豪雨の影響でそれを繰り越して工事をすると、当然繰り越した分だけ供用開始区域が、やはり年度が1年はおくれてくるということにはなりません。したがって、全体で事業がおくれるんかと言われれば、やはりそれは1年だけおくれる区域もありますけど、繰り越した部分についても全部を繰り越しているわけじゃないんで、工事費の一部一部を積み重ねて3億円というふうな事業費を繰り越すということになりますので、それにつきましては7月下旬ごろまでには整備をしていくということになりますので、7月の下旬までに整備ができれば供用開始をぎりぎり、本年度で間に合うところもありということもありますんで、実際は少しおくれますけど、そんなにはおくれてはいかないというふうには考えております。

委員（森本典夫君） 今回のこれだけの予算をつけて、全体の進捗率がどのぐらいになるのか、それから地域別に進捗率がわかれば地域別の進捗率をお知らせいただきたいと思えます。

下水道課長（飛田圭三君） 全体の31年度末、31年度の予算が執行できた暁の整備率でございます。全体では89.5%の進捗率になろうかと思っております。

地域別でございますが、先ほど来、30年度事業については繰り越しということで、まだ精査できておりませんが、29年度末での数字であればお示しすることはできます。

委員（森本典夫君） 今回新しい予算、これだけつくわけですから、そういう意味では現時点で30年度末というてももうちょっとありますが、それで掌握してないということですか。

下水道課長（飛田圭三君） 手持ちの資料がございませんので、お時間をいただければと思います。

委員（森本典夫君） 比較したいんで、29年度末教えてください。

下水道課長（飛田圭三君） 29年度末の数字を申し上げます。整備率で井原町が98.8%、七日市町86.5%、上出部町76.6%、四季が丘100%、下出部町93.2%、笹賀町98.6%、高屋町96.7%、木之子町93.6%、東江原町45.8%、西江原町82.1%、井原処理区の合計が88.0%となります。

委員（森本典夫君） ありがとうございます。ほんなら、30年度わかるようでしたら、また教えていただきたいと思います。

委員長（宮地俊則君） 後ほどでよろしいですか。

委員（森本典夫君） はい。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第14号 平成31年度井原市産業団地開発事業特別会計予算〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第15号 平成31年度井原市美星地区畑地かんがい給水事業特別会計予算〉

委員（多賀信祥君） 526ページ、歳入について伺いますが。繰入金等々ありますけど、借入金というのがございます。使用料を増額せずに借り入れをする理由について伺いたいと思います。

美星支所長（川上邦和君） 借り入れをする理由ということでございますが。これは昨年の7月豪雨により美星中学校東側の市道竜王線が崩落したことに伴い破損しました送水管の復旧工事、それ以外で今後7月豪雨による災害が発見された場合の修繕費用を合わせまして高額になる見込みから、この災害復旧に要する経費について予算不足が発生した場合に借り入れをするものでございます。

使用料の改定をしない理由でございますが、年間の電気料につきましては歳出の80%を占めております。これにつきましては天候とか、それから給水の使用によっては削減できる場合もございます。そういった要素がありますので電気料が少なくなれば借り入れをする必要がなくなるため借り入れ予算としているところでございます。

委員（多賀信祥君） 電気料等々伺いましたけど、今後の収支の見込みについて伺えればと思います。

美星支所長（川上邦和君） 歳入の給水使用料の見込みにつきましては、現状で受益面積が5.7ヘクタール減少していることから今後もこの減少が続くものと考えられ、毎年55万円程度が減少していくのではないかなというふうに見込んでおり、厳しい状況であります。

歳出につきましては先ほど申し上げましたが、電気料が経費の80%を占めているということで、この10年間多少の変動はありますが、増加しております。そのため、漏水をいち早く見つけて修繕するための漏水調査でありますとか、使用者の方に節水などに努めていただくなどの広報宣伝活動を十分行い、無駄な送水をなくして電気料を削減して、今後の収支の安定を図ってまいりたいというふうに考えております。

委員（多賀信祥君） 今ご説明いただいた収支、想定をしている収支にならなかった場合というのは、この借入金というのはどういう扱いになるのでしょうか。

美星支所長（川上邦和君） 今後の見込みで収支ができなかった場合、借り入れを行うのかということでございますが、先ほど申しましたように電気料等の要素によって収支が変わるということもございますので、注視はしていきたいというふうに考えておりますが。なおかつ、収支が保たれないという場合は借り入れ、もしくは将来的には給水使用料の改定も視

野に入れていかなければならないというふうに考えております。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第16号 平成31年度井原市水道事業会計予算〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第18号 平成31年度井原市工業用水道事業会計予算〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

委員長（宮地俊則君） 以上で付託案件の審査は終了いたしました。

なお、委員会報告書の作成につきましては、委員長にご一任願いたいと思います。

〈異議なし〉

委員長（宮地俊則君） 閉会に当たり、執行部で何かございましたらお願いいたします。

副市長（猪原慎太郎君） 終わりに当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

委員の皆様方には昨日から2日間にわたりまして慎重にご審議をいただきまして、まことにありがとうございます。本議会を通じて皆様方からいただいておりますさまざまなご意見、ご要望につきましては、今後の市政に反映をしていきたいというふうに思っております。

新年度予算でございますが、西日本豪雨災害からの復旧を最優先としつつも、次代を担います若者それから子育て世帯にターゲットを絞った新規施策も盛り込んでおります。人口減少対策にも取り組んでいるところでございます。その結果、過去最大の予算規模となったものでございます。限られた予算の中で最大の投資効果が得られますよう、タイムリーな予算執行に心がけて第7次総合計画の着実な推進につなげていきたいと思っております。

春本番でございますけれども、まだまだ朝晩冷え込んでおります。委員の皆様には、どうかお体には十分気をつけられまして、井原市のさらなる発展にご尽力をいただきますようお願いいたします。2日間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

下水道課長（飛田圭三君） 先ほどお尋ねの30年度末の地区別の整備率でございます。

30年度末で整備率が変わった地区を申し上げます。下出部町、こちらが95.6%、笹賀町99.7%、西江原町83.2%、井原処理区計で88.6%です。

〈議長あいさつ〉

委員長（宮地俊則君） 以上で予算決算委員会を閉会いたします。皆さん大変ご苦労さまでした。